

# ニュースレター

No.51

発行 / NPO 法人市民活動サポートセンターいなぎ  
事務局 / 〒 206-0802 稲城市東長沼 2112-1  
稲城市地域振興プラザ 1F  
TEL 042-378-2112 FAX 042-378-6971  
E-mail : info@i-inagi-support.org  
http : //www.i-inagi-support.org/

## 市民活動サポートセンター フォーラム 2015



## みんなが心地いい居場所づくりをめざして

今号では、昨年12月6日に開催された市民活動サポートセンターフォーラム2015「食べてつながる」の様子についてお知らせします。

昨年度までは「人と人が出会う まちの縁側づくり」がフォーラムのテーマでした。その成果を総括したのが、このほど発行した冊子、「ヒト・コト・モノが行き交う場所 稲城の縁側 BOOK」(3ページ参照)です。

「まちの縁側」を取り上げてみて気付いたことは、みんなが集う場を楽しく盛り上げる演出の一つとして、食べたり、飲んだりすることがとても有効、そのことで人と人がフランクにつながり合えているということでした。

そこで今年度からは、「食べてつながる」をテーマに開催することになりました。

### Part1 カフェタイム

昨年までのフォーラムの楽しい雰囲気や踏襲するため、今回も講演会が始まる前にカフェタイムを設けまし



た。協力していただいたのは、「支え合う会みのり」の有志の皆さん(コーヒーとケーキ)と、「いな暮らし」さん(おにぎりとおでん)でした。

おかげで参加者同士がすっかり打ち解け合うことができ、リラックスした雰囲気やフォーラムに臨むことができました。

## Part2 講演会



### 学校でも、家庭でもない、その2つを結ぶ地域活動

講師：大村みさ子さん

(子ども村：中高生  
ホッとステーション  
代表)

地域で様々な活動を行っている大村さん、その一つが行政から依頼されて行っている学びのサポート事業。

そこで学習支援を続けているうちに、子どもたちには、勉強だけでなくもっといろいろな支援が必要だということに気がきます。

中学・高校時代は、心身の成長や知識を習得する上で重要な時期です。にもかかわらず、仕事のために夜遅くまで親が不在で、そのために地域とのつながりを持っていない中で生活している子どもが多く見られます。例えば、子どもの面倒をみる代わりに、お金を渡してディズニーランドに遊びに行かせる親がいたり、ファミレスでの食事やコンビニ弁当しか食べさせてもらえない子どもたちです。

そこで大村さんは、家庭でもない、学校でもない、その二つを結ぶ「地域」が必要と考え、「ホッとステーション」を立ち上げ、夕食を一緒に作って食べる事業を始めます。

大村さんはそんなご自分のことを、「行政の制度にのらない子どもたちの心配をする『おせっかいおばさん』だ」とおっしゃっていましたが、地域づくりには、そういう方の存在が大事だということです。

★★

「ホッとステーション」の立ち上げ方が、とても参考になりました。

まず「この指止まれの旗」を立てる。その上で、こんな会を立ち上げたいのだけど「困った！」と周りじゅうに言いふらすのだそうです。「一緒に立ち上げようヨ」「一緒に困ろうヨ」といったように…。そんなふうに、みんなに呼びかけ、相談して仲間を募ることが大事だと言います。

いま「ホッとステーション」のメインの活動は、週1回、10代から70代の人たちが、大家族のように一緒に夕食を食べながら、寄り添う人間関係を作ること。大村さんの「困った！」に共感して集まった仲間がサポートしています。

なぜメイン活動が「夕食を食べながら」になったのか、そのことについては次のように説明しています。

- ・よその活動を視察した時に、食の匂い、色、ワクワク感が良かった。幸せな感じが持てた。
- ・しかも「食」は教養でもあり、ファミレスやコンビニにないメニューを、子どもたちも参加して作ることに意義がある。

★★

最後に平成26年度の活動報告の説明をしていただきましたが、延べ参加者数が、子ども565人に対し大人576人と、なんと大人の方が多いのです。

子どものための活動と言いながら、この場所が大人の居場所にもなっているということです。

そのことについて大村さんは、次のように総括しています。

- ・「寄り添うことの心地良さ」「排除されない安心感」がここにはある。
- ・スタッフには多様な人がいて、ある時期、自身がつまづいた人もいます。そういう人が親代わり、兄や姉代わりになって子どもたちに寄り添っている。
- ・だから子どもたちは、自分が大人になっても、このままの自分であっていいのだという安心感が得られる。
- ・私自身が楽しみだし、スタッフの誰もがときめきながらこの活動にかかわっている。



## Part3 トークカフェ

参加者が6つのグループに分かれて、それぞれの食卓の思い出を皮切りに、食べてつながるにはどうすればいいかを話し合いました。

### テーマ①「食卓の思い出」

年代や育った地域による違いが聞けておもしろかったのですが、「我が家のカレーの味」は共通して皆さんの心に強く残っているようでした。

### テーマ②「食卓で大切にしたいこと」

- ・コミュニケーションの場として楽しく食べること
- ・礼儀作法を教えるチャンス
- ・食卓に並ぶ前のプロセスを大切にしたい



- ・季節の物を食べる
- ・料理を子どもと一緒に作って食べる

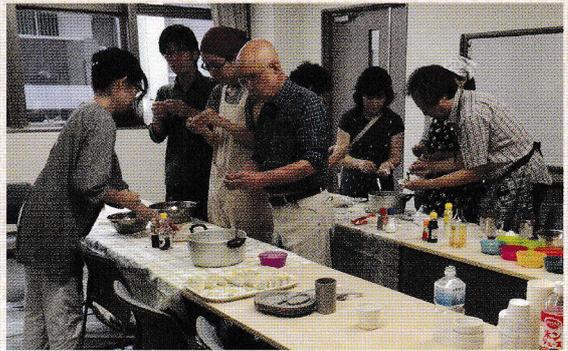
**テーマ③「地域の中で実現するためには」**

- ・父親のネットワークを広げて男の料理の発表会
- ・子どもと一緒に野菜を育てたり料理をしたい
- ・今すでにある取り組みをサポートしたり、つながり合う
- ・皆で使える居場所づくりが目標

## ちゃぶ台キャラバン

フォーラム実行委員会では、年1回のフォーラムを開催するだけでなく、2～3か月に1回、場所やテーマを変えて、「食べてつながる」ワークショップ（体験しながら、相互に学んだり、考え合う活動）を行うことにしました。それが「ちゃぶ台キャラバン」です。

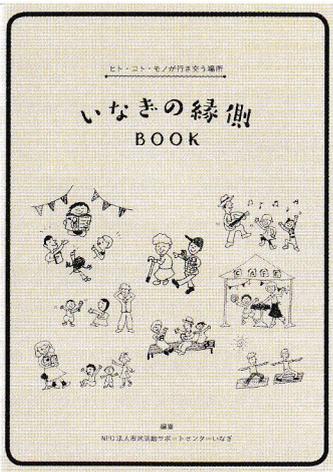
フォーラム前にすでに2回開催していて、1回目は「みんなでギョウザを作る会」、2回目は「稲城の野菜で芋煮会・農家さんと語ろう」がテーマでした。



どちらの会にも、初参加の方が多かったのですが、一緒に作っているうちにとても打ち解けて、一緒に作って食べることの楽しさを体験することができました。

キャラバンには誰でも参加できますので、こんなことをやってみたいというアイデアがありましたら、ぜひサポートセンターまでお寄せください。ぜひ一緒に、食べてつながりましょう！

## 「いなぎの縁側 BOOK」完成！



A5判 26ページ  
カラ一印刷

2012～2014年度に行ってきたフォーラム「人と人が出会う まちの縁側づくり」の成果となる冊子、「ヒト・コト・モノが行き交う場所 稲城の縁側 BOOK」を発行しました！

まちの縁側とは「誰かにとっての居場所」「気軽に集えてホッと一息つけるところ」「新しい出会いがあり新しい何かが生まれるところ」等々…。稲城にあるそんな場所を紹介するとともに、これから縁側づくりを始めたい人のための体験談やコツを満載しました。

入手方法等お問い合わせは、市民活動サポートセンターいなぎ (Tel. 378-2112) まで。



市内 18 か所の「まちの縁側」を紹介しています



稲城の縁側マップや縁側づくりのコツのページもあります

## 市民と市職員のための協働講座



### 公共の場所を より魅力的に するには…

2月8日に標記のテーマで、協働について考える講座が開かれました。講師は、建築家で都市の水辺の魅力を生み出す活動を行っている岩本唯史さんでした。

自らの様々な活動を、写真を交えて紹介しながら、「風景とは、人々の意識によって形づくられる」といった認識を抱くようになるまでの過程を、分かり易く説明していただき、とても刺激を受けました。

詳細はサポートセンターのブログ（HPにリンク）で紹介しますので、ぜひご覧ください。

## 金曜サロンスペシャル「特別編」 1月8日に開催

市民活動サポートセンターいなぎ（以下、「サポートセンター」）では、毎週金曜日の夜7時から金曜サロンを開いています。そのうち毎月第1金曜日は「スペシャル」の日。市内在住、在勤の方が語り手となって話題を提供し、その話題に沿って皆で話し合うという、楽しくて、とても役立つサロンです。すでに開催回数100回を超えています。

例年1月は、特別編として「新年会～夢を語ろう～」を開催します。今までに語り手として登壇された方々をはじめ、サポートセンターの登録団体会員や趣旨に賛同した市民が参加し、会話の中から新しい企画が生まれたり、特技を発見したりで、とても有意義な楽しい会でした。

おじゃまします

登録団体

## チーム龍舞隊 稲城



「りゅうぶたいチーム龍舞隊稲城」の練習会場である第3中学校の体育館におじゃましました。今年6月に札幌で開かれる「YOSAKOIソーラン祭り」への9回目の出場に向けて、真剣な練習が行われていました。

2007年、稲城市初のおさこいソーランチームは12名でスタートしました。当初のテーマは「介護保険のお世話にならず元気に生きるための体力づくり」。2008年に、稲城市の姉妹都市である大空町の女満別龍舞隊からの呼びかけで、札幌の「YOSAKOIソーラン祭り」に初出場。その感動を市民の皆さんにも体験していただきたいとの思いから、女満別龍舞隊の姉妹チームとして「チーム龍舞隊稲城」が結成されました。現在は、小学生から70代までの幅広い年齢層で活動しています。



2015年6月、女満別龍舞隊はYOSAKOIソーラン祭り20年連続出場となり、チーム龍舞隊稲城はそれを支援して地域活性化に寄与してきたことが評価され、「北海道知事特別賞」を受賞しました。その他の活動として、市内の高齢者施設等へのボランティア活動、市内のイベント出演のみならず、府中、池袋、お台場等のおさこい祭りにも出場しています。

会員の楽しみは、毎年新しい振り付けの新曲を踊れることと、新しい衣裳が着られること。またある会員さんは、「事務の仕事で長年腰痛に悩んでいたが、今は全く痛みもなく元気に踊っています。たくさんの方に仲間に入っていただきたい」と話されました。

○お問合せは 田中登美枝さん（稲城市矢野口1377-1 電話090-1125-6739）まで。

▲ 昨年のYOSAKOIソーラン祭りでのダイナミックな演舞（写真提供：チーム龍舞隊稲城）